

### 追悼 表章先生

YAMANAKA, Reiko / 山中, 玲子

---

(出版者 / Publisher)

法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute  
of Hosei University

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 / 能楽研究

(巻 / Volume)

36

(開始ページ / Start Page)

137

(終了ページ / End Page)

140

(発行年 / Year)

2012-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00008647>

## 追悼 表章先生

山中 玲子

本学名誉教授で能楽研究所元所長の表章先生は、平成二十二年九月六日に享年82で逝去された。通夜・葬儀は九月十一日・十二日に中野宝泉寺で長男きよし氏を喪主に執り行われ、学会・能界をはじめ先生に御縁の深かった多数の参列者がしめやかに御見送りした。三月に日本学士院賞・恩賜賞を受賞された先生のお祝いを九月十五日に行うことになっていたその矢先の急逝で、本来は祝宴で披露するはずだった先生の幼時からの思い出深い写真の数々が齋場に飾られ、お祝いの引き出物に添える予定で先生御自身が編まれた略歴と著述目録が会葬者に配られるなど、悲しい予定変更となってしまう。告別式では野村萬氏、竹本幹夫氏、稚内市長(副市長代読)からの弔辞が捧げられ、また、通夜には片山幽雪氏発声の(江口)、告別式には観世鍔之丞氏発声の(卒塔婆小町)も手向けられた。生前に御自身で定められた法名は「観法院釈能章」。観は観世、法は法政大学、能は能楽、章はご自分のお名前から取られたとのことである。

表章先生は、野上記念法政大学能楽研究所が正式に発足する

以前の能楽研究室時代に助手として就任されて以来、平成十一年の定年まで四十七年間、能楽研究所の充実・発展に尽くされた。御定年後も陰になり日向になり研究所の活動を支援してくださったことは感謝に堪えない。

能楽の実証的研究を確立され戦後の能楽研究を牽引して来られた先生のもとには、昔から大学の枠を越えて多くの若い研究者や学生が集まっていた。能楽学会設立の中心となったのも、かつて表先生を畏れ敬いつつ能楽研究所に通い詰めていた人たちである。外国からも優秀な研究者が先生の指導を受けにやってきた。その人たちが今は世界各国(日本全国)で活躍し、研究所の活動を支えてくださると同時に、自分の学生を研究所に送り込んでくれる。表先生一人で既に三十年前に、能楽研究所のCOE拠点を作っていらしたようなものだったのだと、あらためて先生の偉大さに打たれる思いである。

そのような先生も晩年はさすがにお疲れを口にされることも多く、また「老いの自覚」を冗談になさることなどもあったが、いざ研究のことになると驚異的な集中力と鋭さを生涯

最後の日まで持ち続け、些かの妥協も衰えも見せられなかった。亡くなる当日も若い人たちの研究会に出席されたし、最後の御仕事となった御著書二冊(一冊は通夜の日に見本刷りができた)の校正には、行間をぎっしりと埋める赤ペンの書き込みで、詳細な指定が残っている。寿命がいつまで続くのかは誰にも知り得ないことだが、先生はご自分の中に残っていた生命の力を一滴の無駄もなく研究に注がれ、あの世に旅立たれたのだと思う。先生は原稿の字数や頁数をピッタリと合わせるのが好きだったから、二冊の本を仕上げての旅立ちを「してやったり」と思っておいでかもしれない。

能楽研究に生涯を捧げられた表先生は、能楽研究所にもまた別の意味で一生涯を捧げてくださったのだと思う。先生の学恩にあらためて感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げる。

\*\*\*\*\*

以下の略歴と著述目録は、表章氏自身が恩賜賞・学士院賞受賞記念に作成されたものからの抄出である。略歴は特に能楽研究所と関係が深いことを中心に選んだ。著述目録は、単著・共著のほか能楽研究所名義で実際はほぼ表氏の執筆によるもの、氏が深く監修に関わった研究書などを抄出した。また、共著者のお名前は省略させていただいた。ともに、より詳細な情報については「能楽研究講義録六十年の足跡を顧みつつ」(笠間書院 平成22)巻末の「表章の著述目録」「表章の略歴」を参照されたい。

### 【略歴】

- |            |  |
|------------|--|
| 昭和2年 4月26日 | 表三太郎の次男として金沢市で誕生。  |
| 昭和9年 4月    | 稚内北尋常高等小学校尋常科入学。   |
| 昭和20年 3月   | 北海道庁立稚内中学校卒業。  |
| 昭和21年 3月   | 東京高等師範学校分科第二部(国語漢文専攻)入学。   |
| 昭和22年 3月   | 朝日新聞社主催で初めて能を見る。   |
| 昭和23年 4月   | 東京文理科大学国語国文科入学。山岸徳平教授・能勢朝次教授・佐伯梅友助教授・小西甚一助手らの指導を受ける。                   |
| 昭和26年 3月   | 東京文理科大学卒業。   |
| 昭和26年 7月   | 法政大学能楽研究室助手。   |
| 昭和27年 4月   | 野上記念法政大学能楽研究所発足。   |
| 昭和31年 4月   | 法政大学文学部専任講師・能楽研究所所員。   |
| 昭和32年 5月   | 神戸で香西精氏に始めて会う。   |
| 昭和37年 4月   | 法政大学文学部助教授。  |
| 昭和41年 4月   | 中世文学学会幹事となり、「世阿弥生誕六百年記念展覧会」を法政大学で開催。                                   |
| 昭和46年 12月  | 法政大学文学部教授。   |
| 昭和58年 7月   | 能楽研究所、麻布校舎三階に移転。<br>中世文学学会の委員代表として創立三十周年記念誌発行を実現。<br>国立劇場能楽堂発足。専門委員就任。 |
| 9月         |  |

## 139 追悼 表章先生

- 昭和61年 4月  
法政大学文学部長に就任(63年3月まで)。  
能楽研究所長も兼務。
- 昭和63年  
7、9月  
文学部長の任期終了。能楽研究所長は継続。  
オランダのライデン大学に短期留学。
- 平成3年 3月  
財団法人観世文庫発足。常務理事となる。
- 平成7年 3月  
法政大学より「博士(文学)」の学位を受け  
る。学位論文は「喜多流の成立と展開」。
- 12月  
「喜多流の成立と展開」により、角川源義  
賞(国文学部門)を受賞。
- 平成10年 3月  
定年により法政大学を退職。
- 平成14年 6月  
能楽学会発足。初代代表に就任。
- 平成17年 11月  
瑞宝中綬章を授与される。
- 平成22年 1月  
第31回観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。
- 6月  
能楽史研究の業績により恩賜賞・学士院賞  
を受賞。
- 9月 6日  
永眠。
- 【主要著述】
- 昭和29年 8月  
「蔵書目録附解題」(能楽研究所名義)  
能楽史料7「舞正語磨」付 承応神事能評  
判」校注。 わんや書店
- 昭和33年 2月  
岩波文庫「申楽談儀」校注・解説。岩波書店
- 昭和35年 4月  
日本古典文学大系40「謡曲集(上)」(共著)  
岩波書店
- 12月  
岩波書店
- 昭和37年 6月  
「世阿弥生誕六百年記念展覧会出品目録」  
(能楽研究所名義)
- 昭和38年 2月  
日本古典文学大系41「謡曲集(下)」(共著)  
岩波書店
- 昭和40年 3月  
「鴻山文庫本の研究―謡本の部」文部省研  
究助成出版。 わんや書店
- 昭和44年 5月  
「金春古伝書集成」(共著) わんや書店
- 昭和45年 10月  
「図説。光悦謡本」解題篇。(共著)  
畑中有秀堂
- 昭和48年 7月  
日本古典文学全集51「連歌論集・能楽論  
集・俳論集」(共著) 小学館
- 12月  
能楽資料集成2「細川五部伝書」校訂・解  
説。 わんや書店
- 昭和49年 4月  
日本思想体系24「世阿弥・禅竹」(解説加  
藤周一) 岩波書店
- 昭和50年 3月  
能楽資料集成4「法音抄I」影印。  
わんや書店
- 昭和53年 6月  
「日本庶民文化史料集成 第三卷 能」(共  
編)能解説・翻刻。 三一書房
- 昭和53年 11月  
「別冊太陽 日本のこころ25「能」構成・  
監修。 平凡社
- 12月  
「風姿花伝 影印三種」(共著)校訂・解説。  
和泉書院
- 12月  
能楽資料集成9「金春安照伝書」(共校)

- 昭和54年11月 「能楽史新考(一)」 わんや書店  
 昭和55年3月 「能楽と奈良」 奈良市役所  
 8月 能楽資料集成10 「能之訓蒙図彙」 影印の校訂・解説。 わんや書店
- 昭和57年3月 「世界の中の能」(共編) 法大出版局  
 昭和58年8月 水青文庫叢刊第14巻 「芸道秘書集」 編集・解題。 汲古書院
- 昭和61年3月 「能楽史新考(二)」 わんや書店  
 昭和62年3月 岩波講座「能・狂言」Ⅰ 「能楽の歴史」(共著) 岩波書店
- 昭和63年3月 岩波講座「能・狂言」Ⅱ 「能楽の伝書と芸論」(共著) 岩波書店  
 昭和63年5月 完訳日本の古典47 「謡曲集二 風姿花伝」(共著) 小学館
- 平成2年3月 「鴻山文庫蔵能楽資料解題(上)」(能楽研究所名義) 小学館  
 平成4年3月 能楽資料集成17 「実鑑抄系伝書(七)」校訂・解説。 わんや書店
- 平成5年1月 「観世宗家 幽玄の花」 監修・文献資料解題。 朝日新聞社  
 平成6年8月 「喜多流の成立と展開」 平凡社  
 平成7年4月 「江戸初期能番組七種―番組要綱と曲名索引と演者名総覧」 科研究研究成果報告書。
- 平成8年3月 能楽資料集成19 「能楽諸家由緒書」(共著) わんや書店  
 平成9年3月 「観世文庫蔵室町時代謡本集」 観世文庫  
 4月 「世阿弥自筆能本集」(月曜会編集) 監修。 岩波書店
- 平成10年4月 「鴻山文庫蔵能楽資料解題(中)」(能楽研究所名義) 岩波書店  
 平成12年4月 「近世以前の能役者の基礎研究―翻印四十種と総合名鑑二種」 科研究研究成果報告書。  
 平成13年9月 新編日本古典文学全集 「連歌論集・能楽論集・俳論集」(共著) 小学館
- 平成17年3月 「大和猿楽史参究」 岩波書店  
 平成20年2月 「観世流史参究」 檜書店  
 平成21年1月 日本の古典を読む17 「風姿花伝・謡曲名作選」(共著) 小学館
- 平成22年9月 「昭和の創作「伊賀観世系譜」―梅原猛の挑発に込えて」 ぺりかん社  
 9月 「能楽研究講義録―六十年の歩みを顧みつ」 笠間書院 (以上)